■台湾：金山１号機、来年にも廃炉か

台湾電力公司（TAIPOWER）の陳副社長は2014年5月8日、「台湾初の原子力発電所の金山１号機（BWR、65.7万kW）は、使用済燃料の貯蔵場所が確保されないと、予定の2018年より早い来年2015年に閉鎖することになる」と立法院公聴会で証言した。1号機の使用済燃料貯蔵プールには2,982体の燃料を納めることができるが、現在101体余りの空きスペースしかなく、今年11月に原子炉から取り出されることになっている120体を受け入れることができないことになる。ドライキャスク貯蔵施設の建設計画を台北市政府が承認しない場合、94～98体の燃料を交換することによって2015年末まで運転を継続することは可能であるが、使用済燃料は原子炉内に残るとしている。一方、チャン経済大臣は、年内に市政府が貯蔵施設を承認するかどうかについては、今年11月29日に市長選挙を控えており、依然不透明だと述べた。